CampbellCollaboration

Plain language summary
Internat onal Development

2018

分散型森林管理プログラムは森林伐採率を減少させうる しかし、研究成果が未だ乏しいため、 評価のためのエビデンスとして扱うには限界がある

インドネシアやブラジルといった、分散型森林管理の潜在効果が最も高い国々では研究が不十分である

このレビューの目的は何か？
このキャンベル系統的レビューでは、発展途上国における森林伐採や貧困に対する分散型森林管理の影響を検証する。このレビューの要約は、8つの定量的研究(バイアスに対する統計的な調整を用いた疑似実験的研究)と4つの質的研究をエビデンスとする。

分散型森林管理プログラムは森林伐採率を減少させるが、効果はさほど大きくないかもしれない。そのようなプログラムが貧困世帯の収入を減らすかどうかを精査するさらなる研究が必要である。

このレビューでは何を評価したのか？

世界の炭素排出量の10～17%が森林伐採の結果であると推定されている。森林はカーボンシンク(炭素吸収源)としても機能するため、他の資源から排出された炭素を吸収する。そのため、天然林の保全は気候変動を管理するうえで重要な要素である。

分散型森林管理プログラムでは、中央政府から地方自治体へ、森林管理の責任と権限(例えば、どのエリアを保護し、どのエリアを活用するかの決定)を委譲する。そのようなプログラムは森林伐採の減少を主たる目的としているが、貧困の削減を行いながら、この目的が達成できるかどうかについては論争がある。

このレビューでは、低・中所得国(LMICs)における森林伐採と貧困の結果に対する分散型森林管理プログラムの効果根拠を調査する。

どんな研究があったのか?

研究対象となるには、LMICsで実施された研究であり、また森林管理の正式な責務を中央政府から地方自治体に移したプログラムと定義された分散型森林管理プログラムを評価している必要があった。自然に成長した森林の近くに住む人々のあらゆる貧困や、もしくはあらゆる森林伐採についての評価がなされた研究が選ばれた。

森林保護への影響を報告する研究は、ボリビア、インド、ケニア、ネパールで実施された。人の福祉への影響を報告する研究は、エチオピア、マラウイ、ウガンダで実施された。

このレビューがどれぐらい最新のものか？
このレビューの著者は、2013年8月以前の定量的研究及び定質的研究を調査した。このキャンベル系統的レビューは2014年12月に公表されたものである。

キャンベル共同計画とは何か？
キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について
この要約は2014年10月のキャンベル系統的レビュー、Effects of Decentralized Forest Management (DFM) on Deforestation and Poverty in Low and Middle Income Countries: A Systematic Review' by Cyrus Samii, Matthew Lisiecki, Parashar Kulkarni, Laura Paler and Larry Chavisに基づき、Ruth Pittが起案したものである。この要約のリデザインとエディットはTanya Kristiansen(キャンベル共同計画)が行った。この要約の作成を目的とするthe American Institutes for Researchによる財政支援に感謝する。

分散型森林管理プログラムが森林伐採や貧困にどういった影響を与えるのか？
分散型森林管理プログラムは平均的に森林伐採率を減少させる。しかし、効果はそれほど大きくない。

分散型森林管理プログラムは、その影響下にある世帯の平均世帯収入を増加させる。しかし、そのようなプログラムが、貧困世帯の収入に影響を与えるというエビデンスは乏しい。ウガンダで行われたとある研究では、分散型森林管理プログラムが貧困世帯の収入を減少させているかもしれないと示唆された。

制度的・社会的状況は分散型森林管理プログラムの結果に、いかなる影響をもたらすか？
制度的・社会的状況が分散型森林管理プログラムにどのような影響を与えるかを評価する量的なエビデンスは見つからなかった。定質的研究からは、複数のプログラムが効果的であると云うための制度的能力を有していないということが見受けられる。民主的な説明責任を持つプログラムは、より大きい効果を生じさせる可能性はあるが、それはコミュニティが森林保護の目的を支持している場合に限られる。

この介入がいかに機能したのか？
分散型森林管理プログラムは、地方自治体がコミュニティの利益に敏感に反応する、より効率的な森林の政策方針に繋がる、より良い地方状況の知識を持っているという推定に基づいたものである。地方自治体としても、持続可能な森林管理に対するインセンティブを持っているかもしれない。

このレビューからわかることは何か？
分散型森林管理プログラムの支持者は、このようなプログラムが環境保護と貧困削減の双方の成果に寄与できるということを主張している。このようなプログラムの中で貧困削減の利益についての研究はほとんど実施されていないということと、環境保全と貧困との双方の結果を同時に評価した研究がないということを、このレビューにて示した。インドネシアやブラジルのような分散型森林管理プログラムの潜在能力が最も高い国々でもまた、研究は不十分である。

AIR

3ie 10 YEARS International Initiative for Impact Evaluation